

## 交換留学帰国報告書

留学先大学	ナポリ東洋大学
留学先国	イタリア
留学期間	1 学期間
留学開始－終了日	2019 年 10 月 1 日 － 2020 年 2 月 28 日

### 【留学前: 留学に至った経緯や留学準備について】

#### 1. 交換留学を希望した動機について教えてください。

2週間～1か月の短期留学は何回か経験していましたが、より長い間海外に滞在することで、その国についてより深く知り、自分自身も成長させたいと思ったからです。

#### 2. 留学準備を始めた時期はいつ頃ですか。何から準備を始めたかについても教えてください。

4月頃だったと思います。奨学金についての書類の準備から始めました。また、3年前期に受けた留学セミナーでは、留学での心の変化(カルチャーショックなど)や治安など現地で注意すべき点を学ぶことで心の準備も十分にできたと思います。

#### 3. 留学先を決めた経緯について教えてください。また、派遣先の大学や現地情報についてどのように情報収集を行いましたか。

英語を母国語としない国、日本と文化が大きく異なる国という今までとは全く異なる環境に身を置くことで自分を成長させたかったからです。また、長期間滞在するという点で、食べ物が美味しい(口に合う)という点も自分の中ではとても重要でした。  
大学や現地の情報については、ウェブサイトや福井大学のホームページに載っている先輩方の月例報告書をチェックしていました。

#### 4. 留学に向けての語学試験対策、各種語学能力試験などの受験回数について教えてください。

TOEFL は特に Reading を早く解くのが苦手だったので、それを中心に対策しました。正確な受験回数は覚えていませんが、5回ほど受けたと思います。

#### 5. 留学準備を進める際に役に立ったことについて教えてください。

(例: 助言教員、国際課、留学経験者からのアドバイス、大学情報ウェブ、留学オアシスなど)

国際課の担当の方や過去にナポリ東洋大学に留学されていた先輩に分らないことを聞いていました。分かりやすく丁寧に教えてくださったのでとても助かりました。

6. 渡航前の履修登録や単位認定に関して、苦労したことやアドバイスはありますか。

- ・シラバスに載っている科目が実際に開講されるかどうか、行ってみないと分からない点
- ・英語開講科目が思っていた以上に少なかった点

## 【留学中: 大学生活や日常生活について】

### A. 大学生活

1. 大学の校風や雰囲気はどうでしたか。

ナポリ東洋大学の学生は何かしらの外国語を専攻しており他の文化にも興味がある人が多いので、日本語学科の学生だけでなく日本語を専攻していない学生もフレンドリーに接してくれました。

2. 大学構内の設備(ネット環境、学習支援、スポーツ施設等)について教えてください。

大学構内では Wi-Fi が無料で利用できました。スポーツ施設は大学構内にはありませんでした。

3. 参加していたサークルや部活はありますか。部員の数や活動内容、イベントなどについて詳しく教えてください。

ナポリ東洋大学にはサークルや部活はなかったため、参加していませんでした。

### B. 授業や勉強

1. 留学先で履修した科目

1	<ul style="list-style-type: none"><li>●科目名(担当教員名):Lingua Italiana A1(Luca Colozzo)</li><li>●時間数/週(単位数):8 時間</li><li>●クラスの学生数: 約 20 名</li><li>●授業内容・課題(予習・復習の方法等):イタリア語の初級コースだったため、日常生活で使える基礎的な文法やフレーズを学びました。初級コースでもイタリア語で開講されるため、最初は教授が何を言っているのかほとんど分かりませんでした。板書もあまりされないため、耳が慣れるまでは苦労しましたが、授業外の時間でイタリア人の友人とタンDEMでイタリア語と日本語を教え合ううちに少しずつ授業の理解度も高まっていきました。また、一緒に受講する学生も 20 人程度と少なめなので、授業中でも分からないことや気になる点があればその都度教授に質問しやすい環境だったと思います。課題は毎回教科書数ページ分出され、最終テストは筆記と口頭でした。</li></ul>
---	---

	私はイタリア語の挨拶しか分からないレベルで渡航してしまったのですが、最低限数字と簡単な自己紹介が出来るくらいは勉強しておいた方がいいと痛感しました。
	※単位なしで以下の授業も受けました。
2	<p>●科目名(担当教員名): lingua tedesca(ドイツ語)(Verena Schmeiser)</p> <p>●時間数/週: 4 時間</p> <p>●クラスの学生数: 約 25 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): イタリア語でドイツ語を学びました。受講者は私以外全員現地の学生でした。そのため留学生向けに開講されるイタリア語講座で話されるイタリア語と全然スピードが違い最初はついていけないか不安でした。しかし、幸い板書される機会が多く、イタリア語をよく理解できない時があっても近くの学生に尋ねると丁寧に教えてくれたためなんとか乗り切れました。</p> <p>また、イタリアの学生の授業態度にとっても驚きました。イタリアの学生はとても積極的で、授業中に分からないことや気になることがあればその都度教授に質問をしていました。それも一部の人だけでなく、全体的だったのがとても印象強いです。分からないことがあっても恥ずかしいことではない、皆で少しずつ理解していこうという雰囲気や学生の勉強熱心な姿を見て理想的だと感じたと同時に、それまでの自分の勉強に対する姿勢を振り返るきっかけにもなりました。</p> <p>課題は毎回教科書数ページ分出されました。復習はノートを見直すだけでなく、一緒に受講していた学生とドイツ語で話す練習する時間を授業外に設けることで話す力も身に付けようと思いました。また、この授業は年に一度(6.7月)しか試験がないため、試験は受けていません。</p>
3	<p>●科目名(担当教員名): 日本語4(大江)</p> <p>●時間数/週: 2 時間</p> <p>●クラスの学生数: 約 25 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 日本語学習4年目の学生が受ける授業に参加していました。日本語の教科書を読み、その都度その範囲に出てきた文型や言葉の意味、使い方を習うという感じでした。日本語の母語話者としては、それまで使い方や具体的な意味を意識せずに使っていた簡単に思えるような言葉も、非母語話者の立場からするとニュアンスや感覚で覚えるのは難しく、意味や使い方をしっかりと理解しなければマスターするのは難しいということに気づきました。(例えば、副詞の「せっかく」など)</p> <p>また、英語やイタリア語に直訳出来ない表現も多くあり、どの言語にもそれぞれ難しさはあるものの、日本語特有の難しさを感じました。それまで日本人として日本語はある程度分かっているつもりでいましたが、日本語学習者に「この表現はどうやって使うの?」と質問された時に、例文は作れるもののどのような意味合いで使うのかをいざ言葉で正確に説明するとなると難しい・・・ということが多くあったので、「日本語を理解で</p>

きる＝日本語を教えられる」というわけではないということを実感しました。

私はこれまでいくつかの外国語を学んできた経験から(学ぶ言語に関係なく)「非母語話者」の気持ちはある程度は理解できていると思っていましたが、まだまだ浅かったと感じています。私の外国人の友人はそれぞれの国の言語を私に優しく教えてくれますが、私が日本語を教えるという逆の立場に立つ際にも相手も気持ちを理解し優しく教えられるようになりたいと思いました。

また、課題については、本来イタリア人学生が日本語で受講するものなので私は彼らと同じ内容の予習・復習はしませんでした。自分のノートを見直して覚えた単語(イタリア語)を用いてどのような文が作れるかを書いていました。

2. 授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫をしたことはありますか。

分からない時は教授若しくは近くの学生に尋ねるなどして放置しないようにしていました。また、現地の学生と交流できる貴重な機会でもあるため、授業前や後に積極的に話しかけるようにしていました。

3. 学習面で困ったことや、その解決方法について教えてください。

イタリア語講座の教授はあまり板書(スクリーンにも)してくれなかったため、どのような綴りなのか把握するのが難しかったです。その際は隣にいる学生もしくは先生本人に聞いたりしていました。

4. 授業スタイルはどのようなものでしたか(講義聴講、ディスカッション等)。また、それに対してどのような印象を持ちましたか。

どの授業も講義聴講とディスカッション形式の間のような感じでした。教授は淡々と説明するのではなく生徒に話しかけるような感じだったので、質問もしやすい雰囲気でした。日本では生徒が教授に質問することはあまりなく、するとしても教授が設けた質問タイムや授業後がほとんどですが、イタリアでは疑問に思ったらその都度、そして特定の生徒ではなく全体的に皆積極的に質問していたのでその様子にはとても驚きました。質問をしやすい雰囲気であるというのは、教授と学生の距離が縮まるだけでなく、学生同士の距離も縮まり共に学習しやすい環境をつくるということでもあると思います。また、単に単位取得のために受講しているのではなく自分自身のために学んでいるのだなということが強く伝わってきてとても勉強熱心で探求心があると感じました。

5. お薦めの教員や授業などがあれば教えてください。

なし

## C. 居住環境や日常生活

1. 居住場所について教えてください。

形態	<input type="checkbox"/> 寮 <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他( )
部屋人数	( 2 )人部屋
寮・アパート名	なし(イタリアではアパートに名前は付けられないようです)
家賃に含まれた費用	<input checked="" type="checkbox"/> 光熱費 <input checked="" type="checkbox"/> 水道代 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット代 <input type="checkbox"/> 食費 <input type="checkbox"/> その他( )
ネット環境	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
室内設備	<input checked="" type="checkbox"/> ベッド <input checked="" type="checkbox"/> 机 <input checked="" type="checkbox"/> 椅子 <input type="checkbox"/> クローゼット <input type="checkbox"/> 電話 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> シャワー・浴室 <input checked="" type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房機器 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (洗濯機、本棚)
共用設備	(洗濯室、コンビニなど自由に記入してください。) ベッド以外全て

2. 大学、住居周辺の施設について教えてください。

(銀行、現地のスーパー、日本食レストランやスーパーの有無など)

大学の近くに銀行があって便利でした。また、スーパーもアパートから大学に行くまでに二つあったので、いつもどちらかを利用していました。日本食レストランもいくつかありますが、高かったので私は一度も行きませんでした。ナポリは食に保守的なので、ケバブ屋をちらほら見かけるくらいであとはほとんどイタリアンです。中央駅の近くに中国食材店があるので、日本の調味料が切れたときはそこで買い足していました。また、コピー屋さんがそこら中にあり、日本よりも大分安いので、教科書のPDFデータが手に入る場合は原本を購入するよりも全ページをコピーした方が安いと思います。

3. 現地銀行開設の有無や、現金入手方法、クレジットカードの利用頻度などについて教えてください。また、留学費用や現地での支出の管理はどのようにしていましたか。

現地で銀行開設はしていません。現金は渡航時に持参したものと、キャッシュパスポートでATMから引き出したものを使っていました。5€以下の物を購入した時や友人と割り勘などする時以外は基本的に毎日クレジットカードを使用していました。留学費用は奨学金や貯金を使っていました。使った分はメモするようになっていました。

4. 渡航直後に必要だったものや、あって便利だったものを教えてください。また留学期間を通し、日本から持参すべきだったもの、持参しなくてもよかったと思うものはありますか。

【必要・便利だったもの】

洗濯物を干すロープ、スリッパ、日本食を作るのに必要な基本的な調味料(醤油、みりん、料

理酒、だしの素)、インスタント味噌汁、現地の人にあげる日本のおみやげ、マスク(イタリアでは基本的に薬局でも見つかりません。現地では風邪を引いてもマスクを付ける人はほとんどいませんが、念のため数枚持っていくと便利です。私の場合は帰国時にコロナウイルスが流行っていたので持って行って良かったと思いました。)

【日本から持参すべきだったもの】

スマホのイヤフォン(持ってきていたつもりが忘れていました。新しく買おうとすると高いので)、TOEIC 対策の本(途中で Amazon で購入し日本から取り寄せました)、ドレッシング(イタリアには日本のような和風・ゴマ・イタリアンドレッシングはなく、基本的にオリーブオイルとバルサミコ酢をかけて食べます。サラダ用にあると便利です)、

【持参しなくてもよかったと思うもの】

コート一着(二着持参したが、もう一着は嵩張るもののあまり着なかったため)、電子辞書(スマートフォンで十分だと感じました)

5. 留学にかかる必要経費について教えてください。(現地通貨＝ユーロ )(例:USドル)

内容	金額	内容	金額
渡航費	約 17 万円	食費	約 4 万円
保険代	約 10 万円	家賃	約 21 万円
予防接種・ビザ代	約 1 万 5 千円	教科書代	5 百円
交際費(外食等)	約 5 万円	その他	

合計:約59万円

6. 文化・習慣の違いなどで気をつけていたことやアドバイス(服装・マナーなど)があれば教えてください。

イタリア国内の旅行時にドゥオモ(大聖堂)に行く機会が多かったのですが、肌の露出が少ない服装で行くよう心掛けていました。また、イタリアでは鼻をすするのが日本よりも不快に思われるようなので気を付けていました。

ナポリの道路は基本石畳なのでスニーカーしか履いていませんでした。スニーカーでも時々つまずきそうになるのでヒールは履かない方が安全だと思います。

また、ナポリではスリが多いため、スマートフォンは常に長めのストラップ(紐)を付けてリュックの肩紐かズボンのベルトを通す紐に通した状態でポケットに入れていました。(ポケットよりもカバンの中にするのが一番安全だと思いますが、外でスマートフォンを使う機会が多かったため) 財布はカバンの奥に入れていましたが、盗られた場合のことを考えて現金はその日使いそうな分のみ少なめにに入れていました。

日本のお店では店員さんから「いらっしゃいませ」と言われるのが一般的ですが、イタリア

では自分(客側)から”Ciao!” “Buongiorno”などと挨拶する人が多かったので、私もそうしていました。

#### D. 健康管理

1. 周辺の病院や学内での医療サービスについて教えてください。

病院には行きませんでした。また、学内での医療サービスもありませんでした。

2. 留学中に通院や入院はしましたか。その際にかかった医療費はいくらでしたか。

留学中に通院や入院はしませんでした。

留学開始二か月ほど前に急に歯が痛くなったので、治療を済ませてから渡航しました。特に「歯の治療」は海外保険の一番安いプランには含まれておらず、それより少し高い含まれているものを選んだとしても最初の数か月は適応されないとのことだったので、歯が痛くなくても念のため渡航前に日本で診てもらおうことをおすすめします。

3. 渡航前に必要だった健康診断や予防接種、日本から持参した薬などはありますか。

健康診断は福井大学で毎年春に行われるもののみ受診し、予防注射はしませんでした。日本からは、酔い止めの薬と胃腸薬を持参しました。

#### 【留学後：成果や今後の進路について】

1. 交換留学の成果について教えてください。

留学前に設定した目標が達成できたか/留学先での学業や生活を通して学んだこと/留学前に期待した以上に達成できたこととその理由/留学中、特に努力したことや心掛けたこと/留学を終えて変わったことなど

留学前に設定していた主な目標である、①イタリア語の習得とアウトプット、②見習うべき文化や価値観を学ぶという二つのことを達成することが出来たと思います。

①については、話せる言語を増やすことで交流の幅を広げることが目的でした。ほとんどイタリア語が分からない状態からのスタートでしたが、イタリア語講座やタンデムを通して少しずつ話せるようになり、現地の学生や人々と簡単な内容であればイタリア語で会話できるようになりました。そして留学を通して現地語を学ぶ重要性をとて強く感じました。あまり英語が通じないとされるイタリアでも観光地となれば簡単な英語であれば店員さんなどと意思疎通は可能ですが、たとえ片言であってもこちらが英語を話すのとイタリア語を話すのでは態度が全然違いました。イタリア語を使う方が相手も嬉しそうだし、「なんでイタリア語話せるの？」などと自分に興味を示してくれたので距離を縮めやすく顔も覚えてもらいやすかったです。また、近所の小売店にいらっしやる英語が通じないご高齢の方が簡単な会話が楽しめたのも私がイタリア語を学んでいなかったら出来なかったことだったと思います。これらの経験から、たとえ文法や発

音が完璧ではなくても一生涯現地の言語で自分の思いや考えを伝えようとする姿勢が大事なのだと実感しました。

また、②(見習うべき文化や価値観を学ぶ)については、日本とは大きく異なる文化に触れることで今までとは違った視点から物事を見られるようになることが目的でした。特に仕事やプライベートに対する考え方が日本とは大きく異なると感じましたが、今後自分はどのように働きたいのか改めて考えさせられるきっかけになりました。

また、なかなか上手いかなかった住居探しを通して問題解決力や環境適応力が身に付いたと感じています。一回目に契約したアパートが前の住人が起こしたトラブルによって破棄された際、最終的に契約したアパートの入居日が予定より一か月ほど遅れることになった際、待ち遠しにしていたアパートへ入居すると契約したはずのものとは全く別の場所と中身だった際に、なぜそうなったのか詳しい理由を言ってもらえなかったり誤魔化されたりすることが多々ありました。一度や二度では聞く耳を持ってくれずイタリア人のチューターも諦めかけていたのですが、住居に関する大事なことでありどうしても納得できなかったため、しっかりと説明してもらえらるまでお願いし続けました。また、イタリアの生活環境は日本とは大きく異なり最初は戸惑うこともあったのですが、気づいたら慣れていて心地よいと感じる基準も低くなっていたので環境適応能力も身に付いたのではないかと思います。

この留学を通して学業はもちろんのこと、それ以外の場面でも自分を大いに成長させることが出来たのではないかと感じています。これらの経験を今後の人生に活かしていきたいです。

2. 留学中に達成が出来なかったことやその理由、反省点があれば教えてください。

当初イタリアでPBLをしたいと思っていたのですが出来ませんでした。食べ物関連のテーマにしようと思っていたのですが、英語と一緒に活動したりインタビューしたりできるような団体がなく、イタリア語に関しても私は初級で、イタリア人のチューターにずっとお願いするわけにもいかなかったのが断念しました。

3. 今後の目標や挑戦したいこと、進路や就職活動について教えてください。

意外と日本について知らないことが多くあるということに気づいたため、まずは日本人として恥ずかしくないように様々な分野において日本に関する知識を増やしたいと思いました。

4. あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージをお願いします。

他の大学と比べて英語開講科目が少ないのが難点かもしれませんが、授業や単位取得だけが留学ではありません。大学外の生活面で学ぶことも多くあるため、その国の文化なども含め自分が行きたい国として適しているかトータルで考えるとよいと思います。

同じ国の同じ大学に行ったとしても一つとして同じ「留学」はなく、十人十色なので自分だけの留学を楽しんでもらいたいです。ですが、ナポリ東洋大学での留学をイメージする上で、少しでもこの報告書が参考になれば幸いです。



